



河川の防災対策で 水害から地域を守る

栃木県では、21世紀末には、20世紀末に比べて、「降水日数は、数日程度減少する」一方、「滝のように降る雨と表現される短時間強雨（1時間降水量50mm以上）の発生回数が約2倍になる」と予測されています。県は、近年の大規模な水害を踏まえ、県民の生命を守るため、計画的な河川整備とともに、浸水範囲のきめ細かな情報提供を進めています。



「浸水リスク想定図※」の作成

昨年の令和元年東日本台風（台風19号）は、観測史上最大となる降水量を記録し、県民の生命や財産に大きな被害をもたらしました。

県では、近年の水害を踏まえ、本年6月、新たに県内16の河川について「浸水リスク想定図※」を作成しました。

この情報は、災害時の避難行動に活用するために市町が作成するハザードマップ（災害が発生するおそれの高い場所を色染めした地図）に活用され、防災対策の強化につながります。

災害時の適切な避難を促し、人的被害をなくすため、今後も他の河川での作成を進めていきます。

※浸水リスク想定図

水防法に基づく洪水予報河川、水位周知河川以外の河川のうち、主要な区間について、想定し得る最大規模降雨による氾濫時の浸水区域及びその水深等を示すもの
⇒水防法に基づく河川については、「洪水浸水想定区域図」を公表済み（18河川19区間：R2.9月末時点）

浸水リスク想定図の例



利根川水系出流川

とちぎ 浸水リスク想定図

検索

河川の堤防強化による防災・減災対策

洪水の被害を最小限に抑えるため、効果的な治水対策を実施しています。堤防から越水が発生した場合でも、堤防の決壊を防止したり、決壊までの時間を引き延ばすことができるよう堤防の構造を強化する対策を進めています。



対策事例

川に堆積した土を活用し堤防幅を広げる。

